

みやけの風

第 253 号

平成17年(2005年)12月19日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

木曜日の朝、三宅島はひさびさの風でした。暖かい日差しにさそわれてたくさんの方が「風の家」に立ち寄ってお茶を一杯したり、将棋を指したり、島節を歌ったり、笑い声が、縁側でみんなでひなたぼっこするように、一日を過ごしています。

～ みやけじま「風の家」より～ 12月19日

今週末は、ひさびさにたくさんの赤帽ボランティアたちが、島に来ています。年末のお掃除のお手伝いをするためです。週末だけ、しかも一軒のお宅に一日だけですので、たいしたことは出来ませんが、高齢で年末のお掃除が難しい方の所へ伺っています。来週末もボランティアが来島する予定ですので、島内でまた赤帽が走っているのを見かけることがあるかもしれません。どうぞよろしくお祈りします。
 (三宅島災害・東京ボランティア支援センター)

みやけじま「風の家」 年末・年始 お休みのご案内

年内：12月28日(水) 正午まで(大掃除)

新年：1月10日(火) から 通常通り

10月5日、みやけじま「風の家」が開設されてから2ヶ月余りが経ちました。みやけじま「風の家」は、引き続き「やさしく」「仲良し」をテーマに島のみなさんと共に歩んでまいります。

～ 元気にあたらしい年を迎えましょう ～

みやけじま<風の家>

〒100-1212 三宅村阿古 532-1 TEL 04994-5-1470 FAX 04994-5-1471

リウ・ミセキ写真展『脱皮 / 三宅島』のご案内

会期：12月15日(木)～20日(火) 11:00～18:30

会場：京セラコンタックスサロン・東京(東京交通会館7F / JR有楽町からすぐ)

案内ハガキ挨拶より

三宅島に魅せられて30年が経つ。壁や天井に遮られない広がりを持つ「自然のスタジオを探し求めて、この島に巡り会った。黒い溶岩原がホリゾン、太陽がストロボという、無限に広い私だけのスタジオ。それは素晴らしい撮影環境だった。撮影の為に拠点としてアトリエを設けたのは39歳、昭和60年(1985)のことだった。人生の半分を過ごしてきた三宅島。今回2000年の噴火は全島避難という大きな不幸になった。4年半もの長い避難生活になり経済的にも精神的にも辛く苦しい二重生活を、島民たちは東京で過ごしてきた。その間に島を見ぬまま亡くなられた方も大

勢いた。その無念、その不運を私は撮れるだろうか。自分に問いかけながら撮影を始めたのは帰島が正式に認められた2005年2月。どれだけ撮れたか、正直よくわからない。「三宅の鼓動はね、縄文の昔から20年が一拍だったんですよ。ドクンとね。いちいち悲しんでなんかいられません。ずーっとそうだったんですから。でもいいこともあるよ。紫陽花も珊瑚も伊勢エビもくさやも明日葉もテングサも、みんな若返るのさ。人間だってね。これ脱皮なのよ。三宅は蛇の尻尾だからね」島の老婆は笑って言った。――